

イソカリ 3.7畳 ログ厚40mm シングルガラス

日本語組立・お手入れマニュアル | フィンランド製

2500 mm x 2500 mm / 40 mm



本体 2500 × 2500 mm / 壁厚 40 mm

部材を並べて、壁を一段ずつ。

この一冊で、準備から仕上げまで順番に進められます。

平面・立面・断面図と部材一覧も収録しています。

株式会社 八ヶ岳むらはま工房

2026年10月 日本語編集版

はじめに | 組立は、大きく6ステップ

組立ガイド | フィンランド製

- 01 準備する・基礎を整える
- 02 最初の段を組み、直角を確かめる
- 03 壁を積み、ドアと窓を取り付ける
- 04 妻壁と屋根の骨組みを組む
- 05 屋根と床を張る
- 06 塗装・固定を確認して完成

まずは全体に目を通し、部材を番号別に分けましょう。

図中の A1・O1 などは部材記号です。部材一覧と照合してください。

寸法は特記がない限り mm。図は縮尺どおりではありません。

安心して楽しむための3つのポイント

- ・基礎の水平と、壁の対角寸法をそろえる。
- ・ドア・窓上の沈み込み用すき間をふさがない。
- ・屋根作業と妻壁の持ち上げは、複数人で安全に進める。

準備 | 道具と部材をそろえましょう

組立ガイド | フィンランド製

使う道具

ハンマー、当て木、電動ドリル・ドライバー、手回しドライバー、
水平器、巻尺、スパナ、のこぎり、クランプ、木工用接着剤。
安定した作業台・足場、手袋、保護メガネも用意してください。

開梱したら

部材記号・寸法・数量を確認し、壁ごとに分けて置きます。
不足や使用に支障のある割れなどは、加工・取付け前に写真を撮り、
梱包の製造・管理番号とともに八ヶ岳むらはま工房へご連絡ください。
すぐに組み立てない場合は、平らな台の上で地面から離し、
雨と湿気を避けて保管します。包装だけで長期保管しないでください。

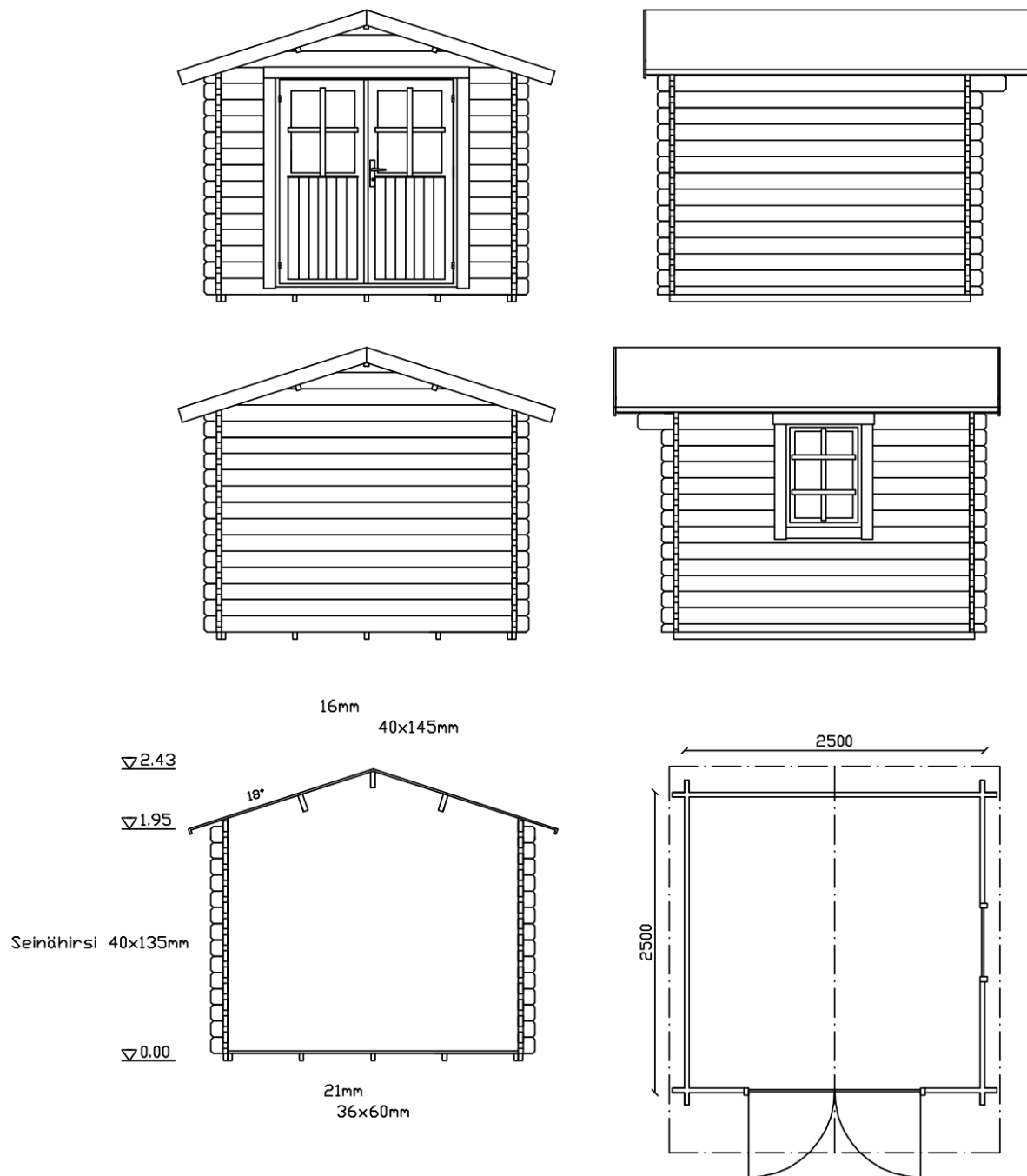
別途用意するもの

基礎・防湿材、基礎固定金物、必要な耐風補強材、屋根仕上げ材、
塗料など。契約によって付属内容が異なるため、納品内容を確認します。

作業は2人以上を目安に。妻壁の持ち上げは2～3人で行います。
強風・雨天時や不安定な足場での屋根作業は避け、子どもを近づけません。
設置場所に必要な申請・届出は、着工前に確認してください。

図面 | 平面・立面・断面

資料図 | フィンランド製



上段：正面・右側面 中段：背面・左側面

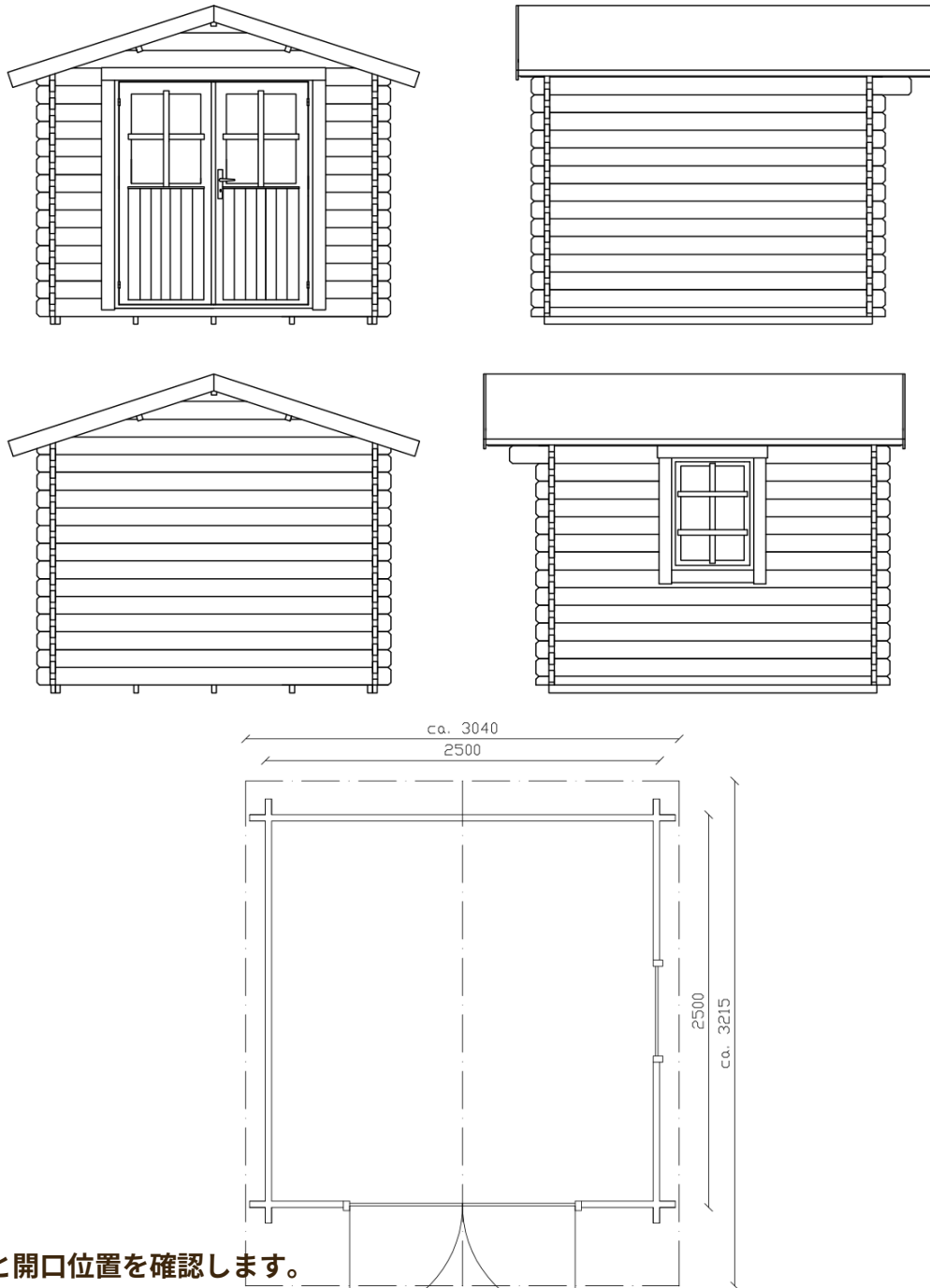
下段左：断面 下段右：平面。外形の基準寸法は2500×2500。

断面：屋根板16、母屋40×145、壁40×135、床板21、基礎材36×60。

基礎材は36×54仕様の場合もあります。納品部材を確認してください。

図面 | 寸法を確認する

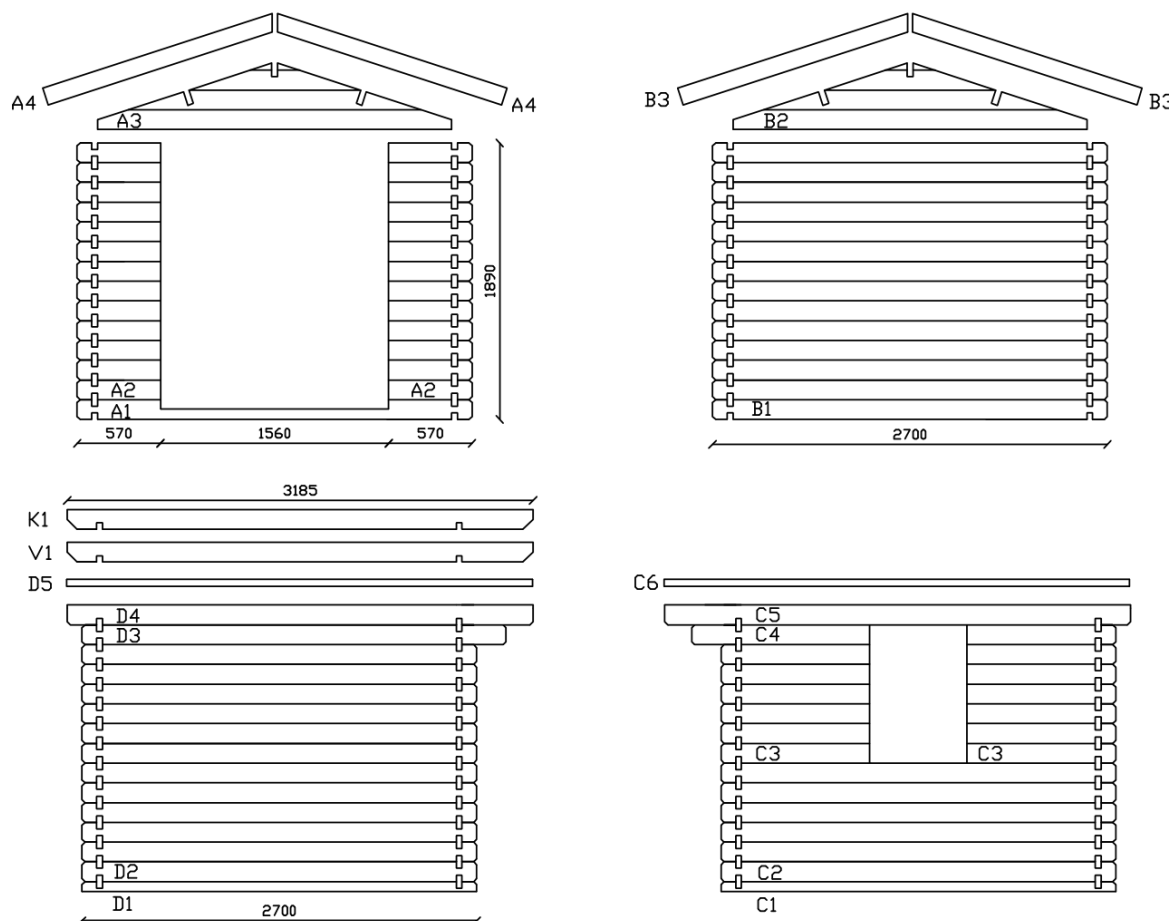
組立ガイド | フィンランド製



各部の寸法と開口位置を確認します。
図中の数値を優先し、紙面上の長さから寸法を読み取らないでください。

図面 | 壁ごとの部材配置

組立ガイド | フィンランド製

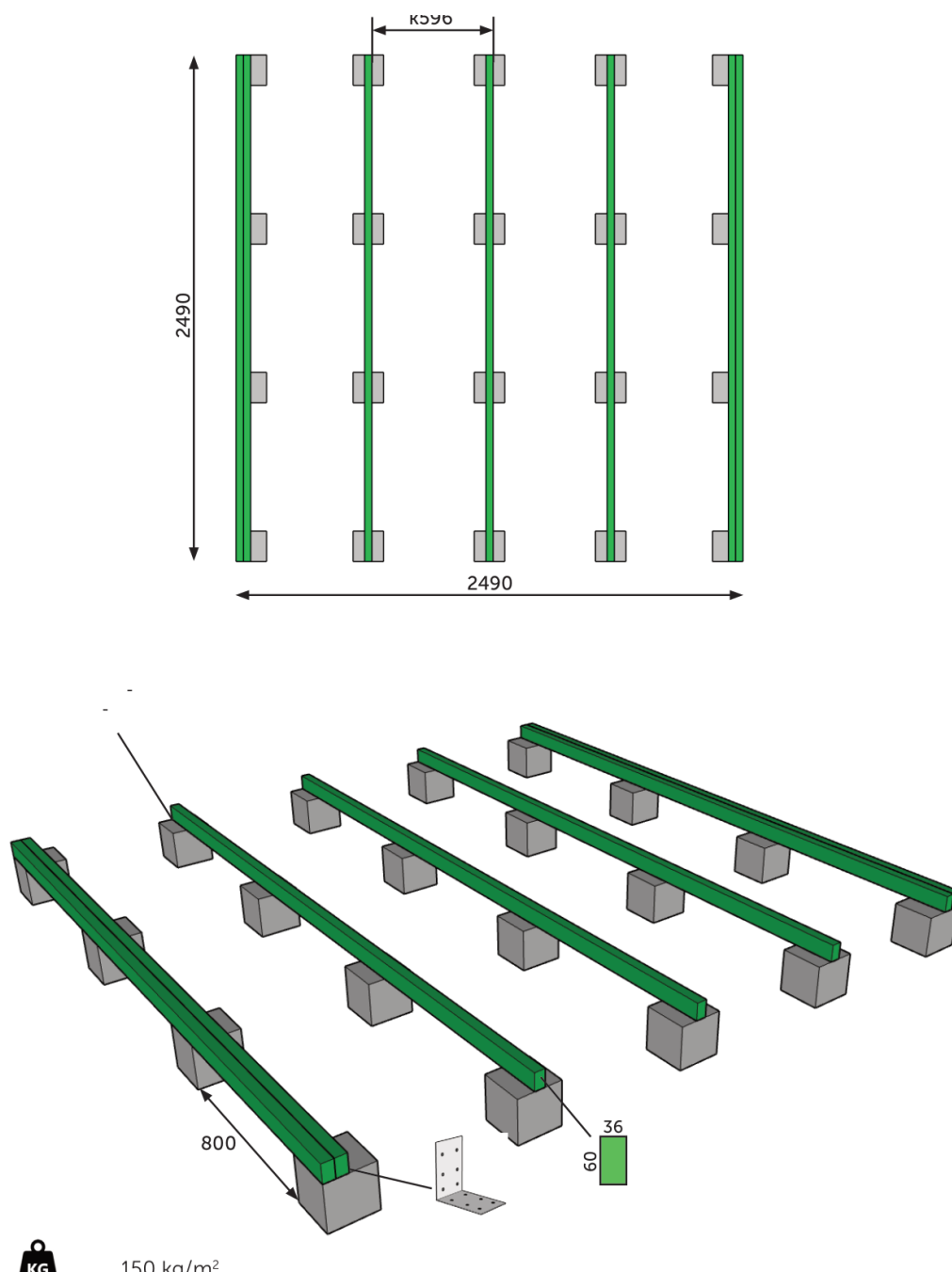


A：ドア面 B：背面 C：窓のある側面 D：反対側の側面。

壁はこの配置図の記号と段数に合わせて積み上げます。

01 | 基礎を水平に整える

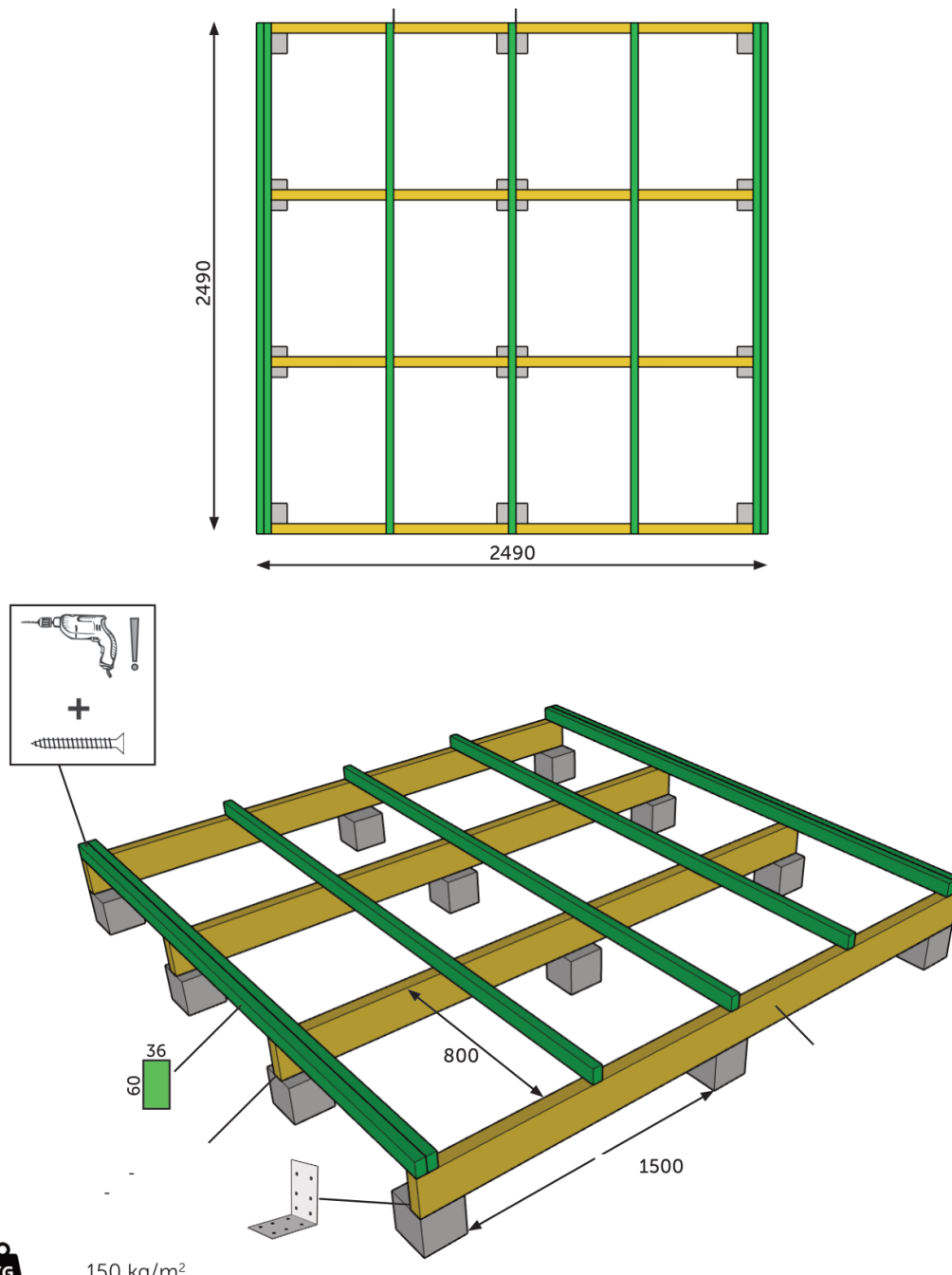
組立ガイド | フィンランド製



地盤・凍結・排水条件に合う基礎を選びます。基礎上面はすべて水平に。
 付属基礎材を直接支える例：支持間隔は最大800、配置寸法は図を参照。
 基礎と木材の間に防湿材を入れ、金物で固定。床下の通風を確保します。
 図の床荷重表示は最大150 kg/m²。地盤や積雪への適合保証ではありません。

01 | 補助の梁を使う基礎の例

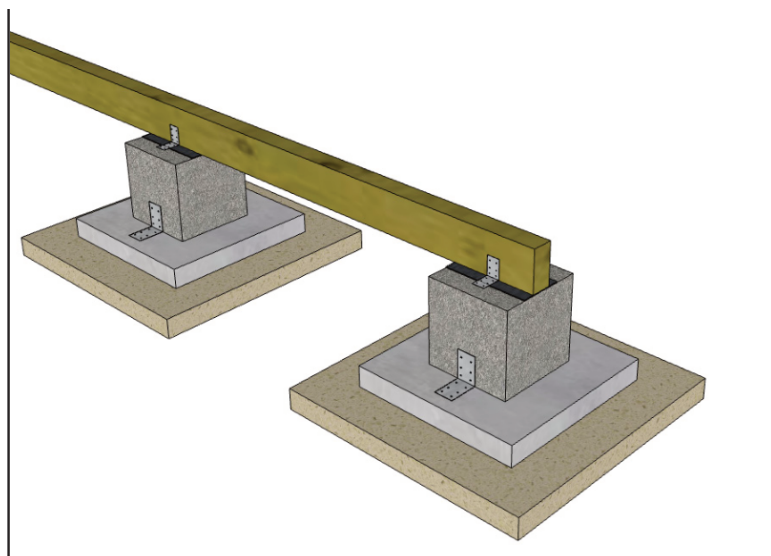
組立ガイド | フィンランド製



50×150の補助梁を使う例です。補助梁・基礎・防湿材は別途用意。
 図示の支持間隔：付属基礎材方向は最大800、補助梁方向は最大1500。
 寒冷地や軟弱地盤では、この配置だけで決めず基礎計画を確認します。
 荷重表示は最大150 kg/m²。現場条件に応じた補強・固定が必要です。

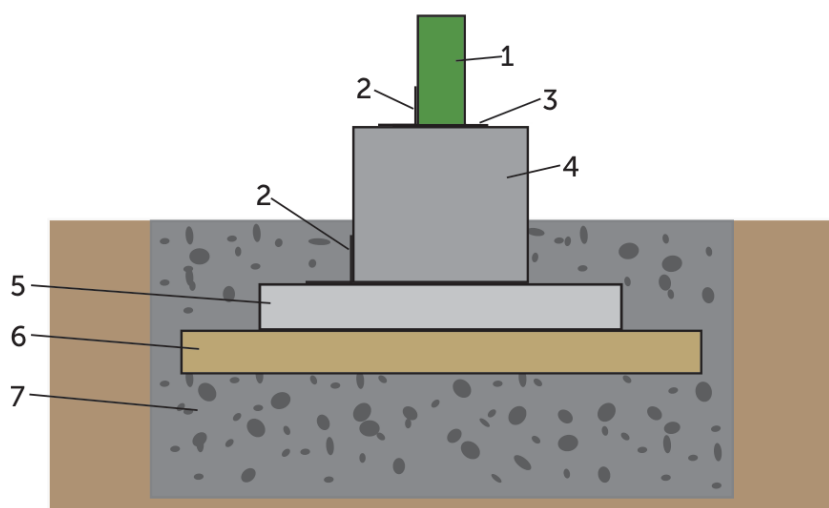
01 | 基礎の断面イメージ

組立ガイド | フィンランド製



1
2
3
4
5
6
7

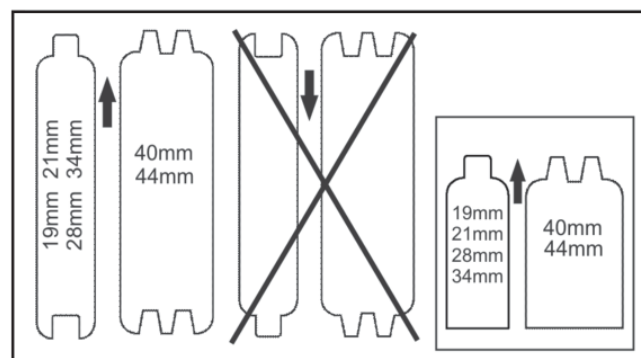
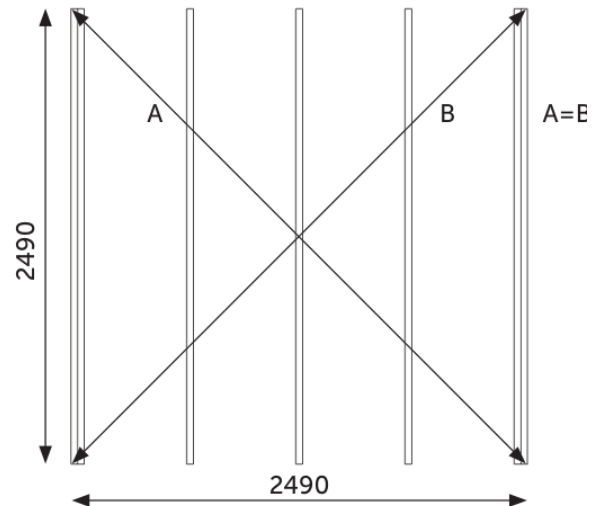
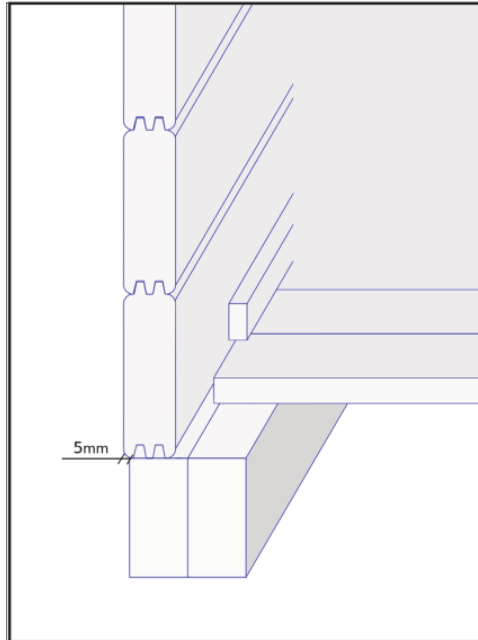
+



締め固めた碎石などで安定した支持面をつくり、雨水を排水します。
木材と基礎の間に防湿材を挟みます。木材を土に直接接触させません。
これは軽い独立基礎の考え方を示す参考図です。
凍上のある場所では、地域の凍結深度に合う基礎を計画してください。

02 | 基礎材と最初の壁を組む

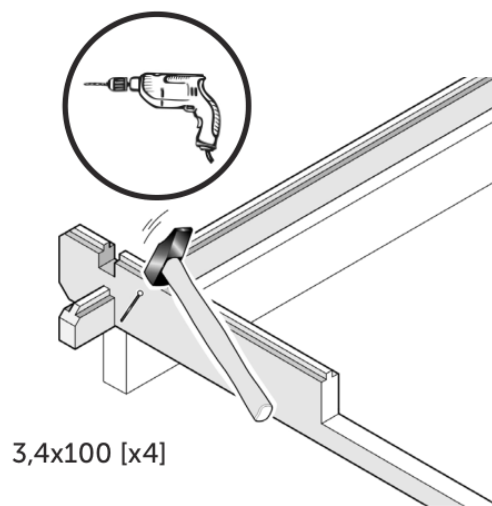
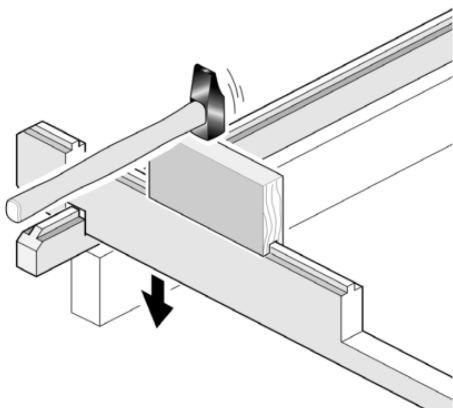
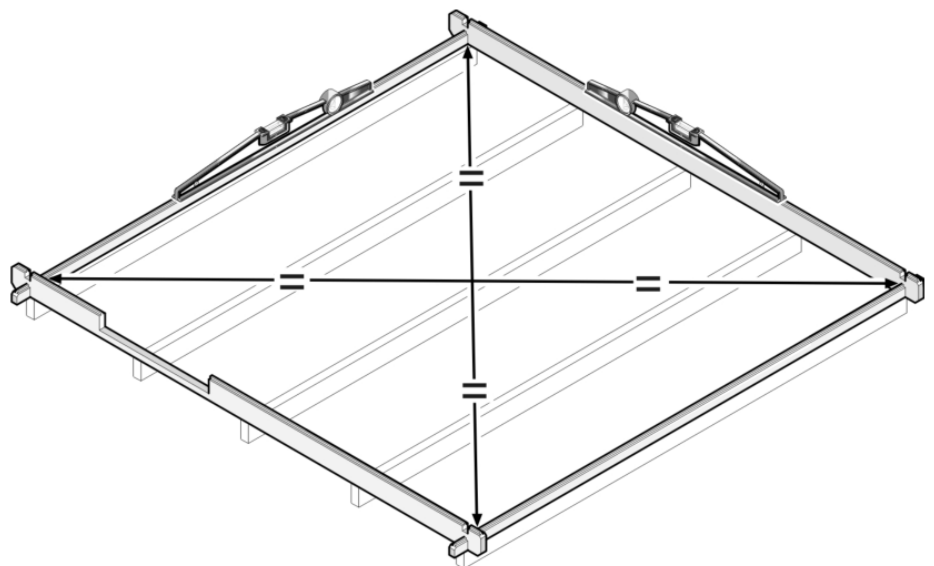
組立ガイド | フィンランド製



基礎材を配置し、壁材の凸部を上向きにして最初の段を組みます。
 基礎材は壁外面より5～10ほど内側となるよう、図に合わせて配置。
 床板の端を基礎材で受けられるかも確認します。
 左右の位置・水平・対角寸法を確かめてから固定へ進みましょう。

02 | 対角寸法をそろえ、固定する

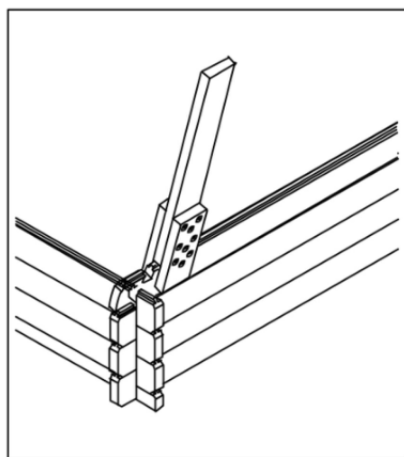
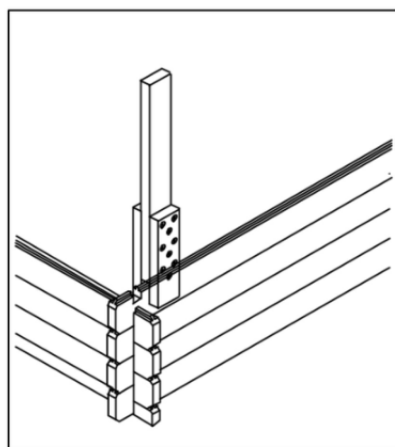
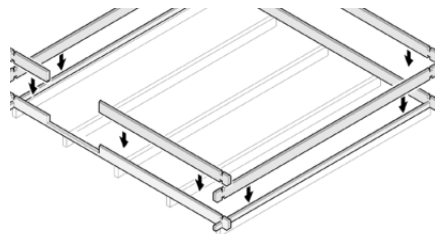
組立ガイド | フィンランド製



四隅を結ぶ2本の対角寸法が同じなら、壁枠の直角が出ています。
寸法図に合わせて調整し、最初の壁材を基礎材へ固定します。
割れを避けるため必要に応じて下穴を開け、当て木を使って組みます。
壁材の凸部をハンマーで直接たたかないでください。

03 | 壁を一段ずつ積み上げる

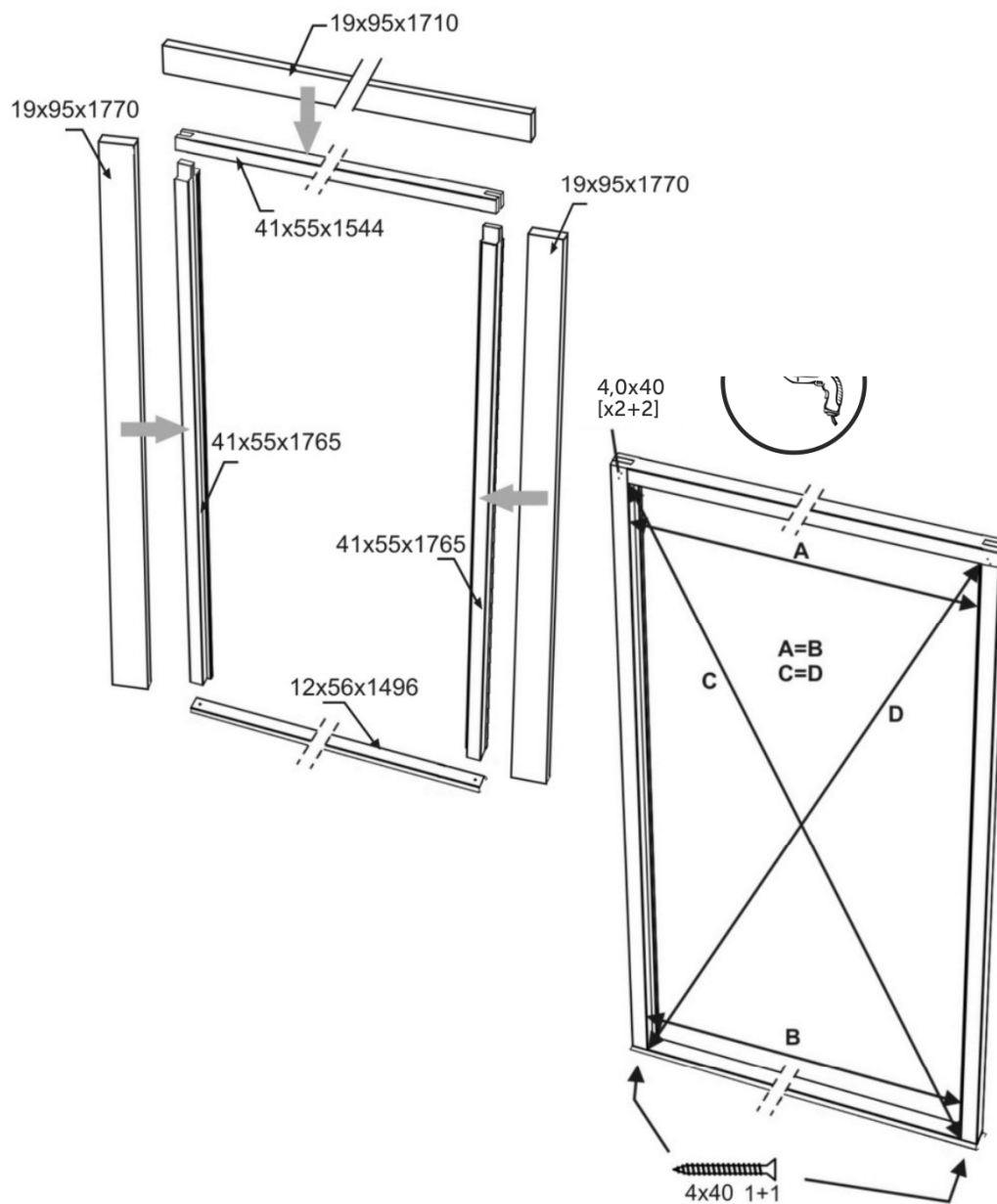
組立ガイド | フィンランド製



まず5～6段程度まで、四方を均等に積み上げます。
各段のかみ合わせを確認し、当て木で少しずつ納めましょう。
軽いねじれは当て木とクランプでゆっくり調整します。無理な力は禁物。
割れや反りで納まらないときは、削る前に当工房へご相談ください。

03 | ドア枠を組み立てる

組立ガイド | フィンランド製



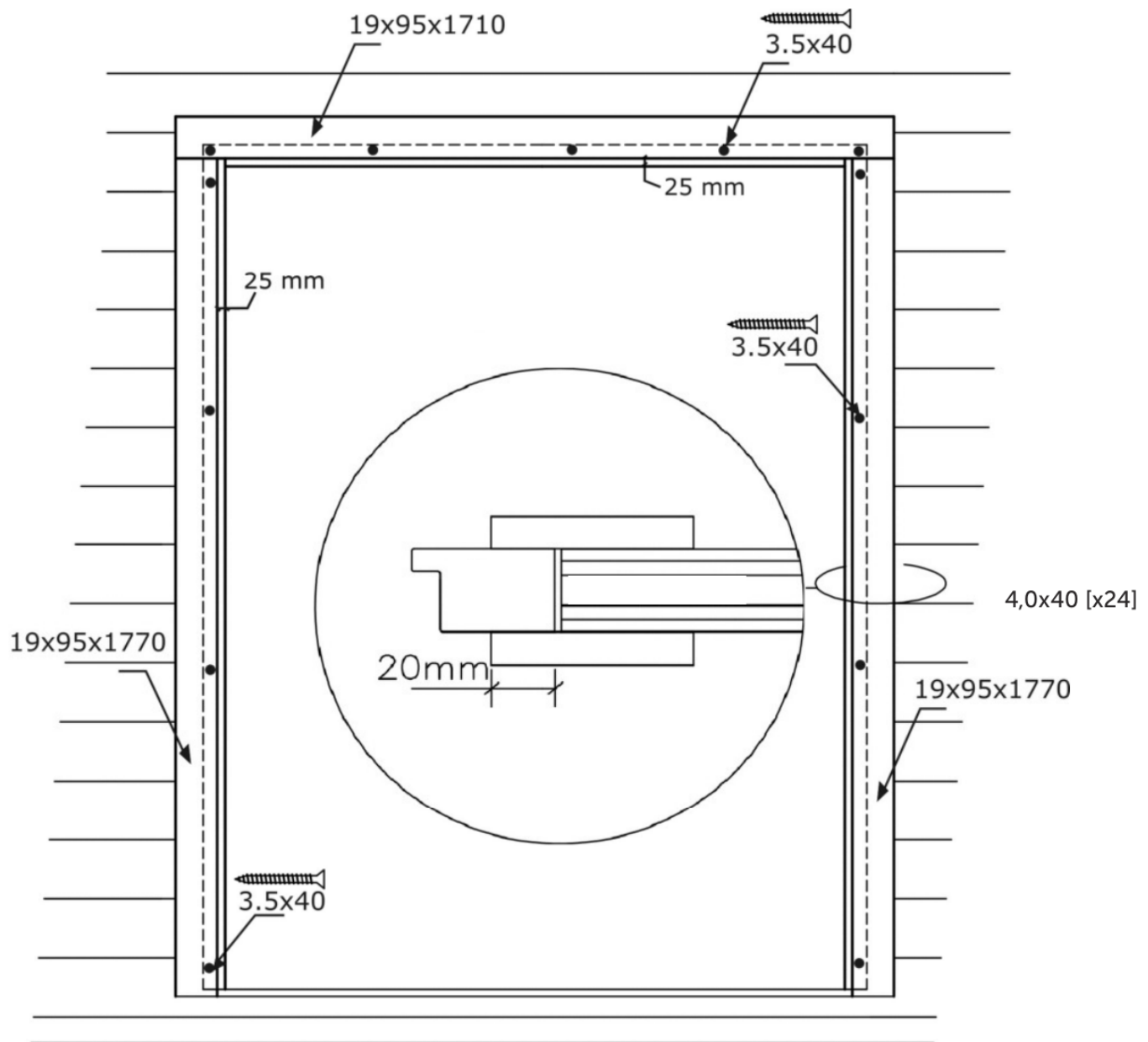
図の寸法で縦枠・上枠・金属敷居を組みます。

4×40のビスを使用。上下の幅と2本の対角寸法をそろえます。

先に枠を直角にしておくと、この先の建付け調整がスムーズです。

03 | ドア枠を壁に納める

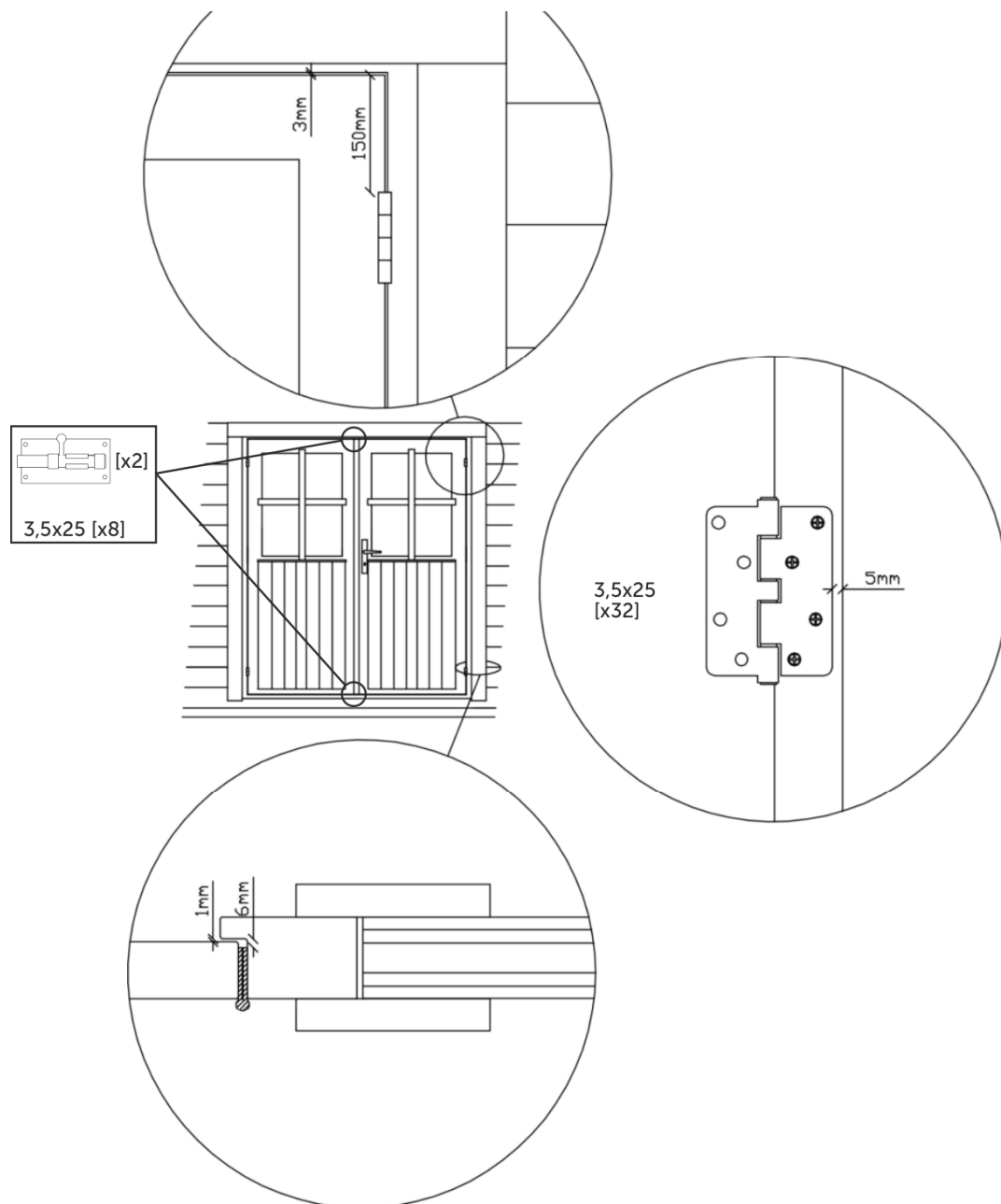
組立ガイド | フィンランド製



枠の両側に額縁材を4×40のビスで取り付けます。
 壁を積む途中で枠を入れるか、片側の額縁を先に付けて開口へ納めます。
 額縁はドア枠だけに固定し、壁ログには固定しません。
 枠上のすき間は木の沈み込み用です。詰め物でふさがらないでください。

03 | 丁番と金具を取り付ける

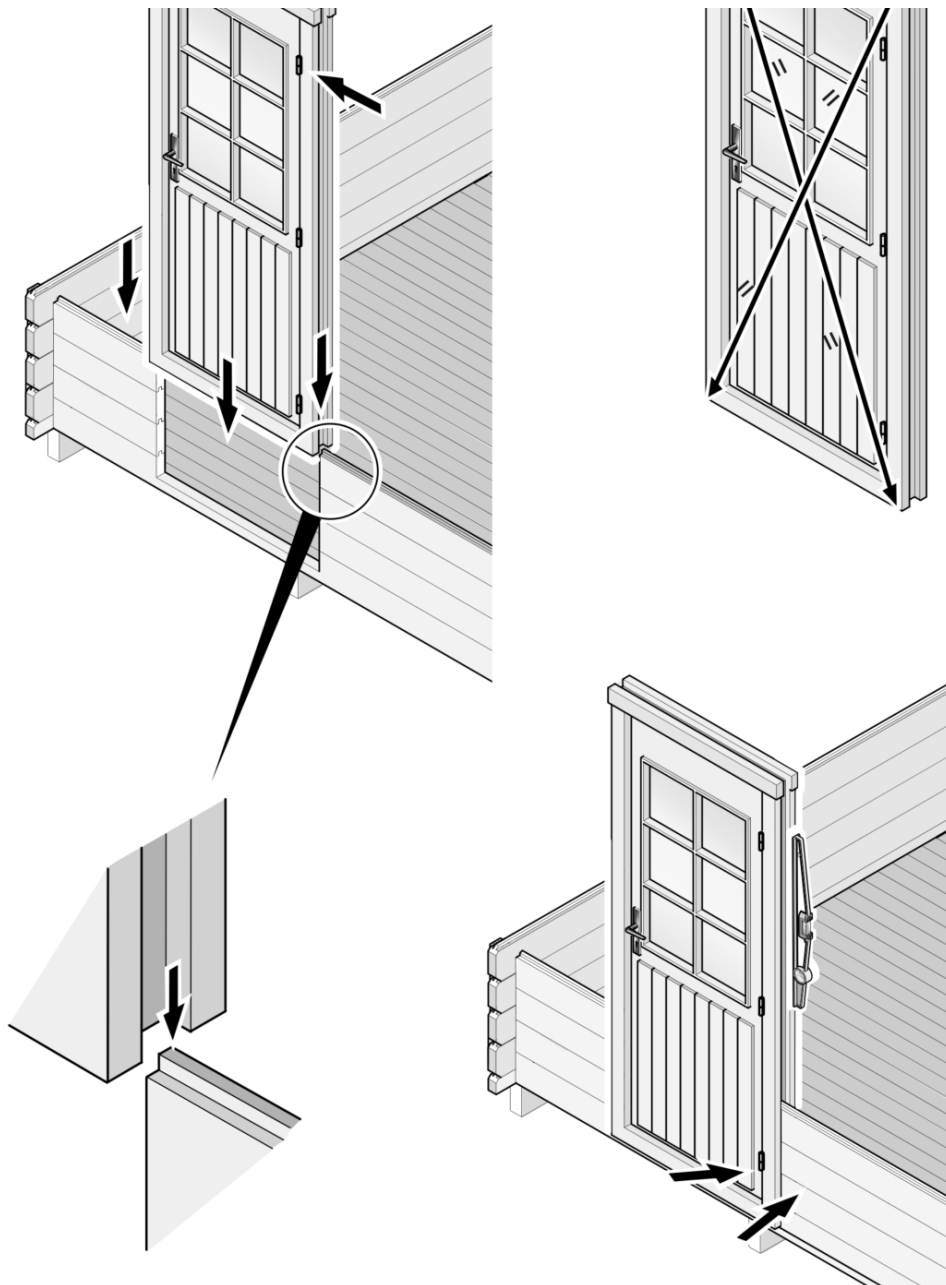
組立ガイド | フィンランド製



図の向きに合わせ、丁番・取手・錠前・落とし金具を取り付けます。
図示の3.5×25ビスを使用。金具は最後に手工具で加減して締めます。
窓やドアを支えながら作業し、指を挟まないよう注意してください。

03 | ドアを吊り込み、動きを確認

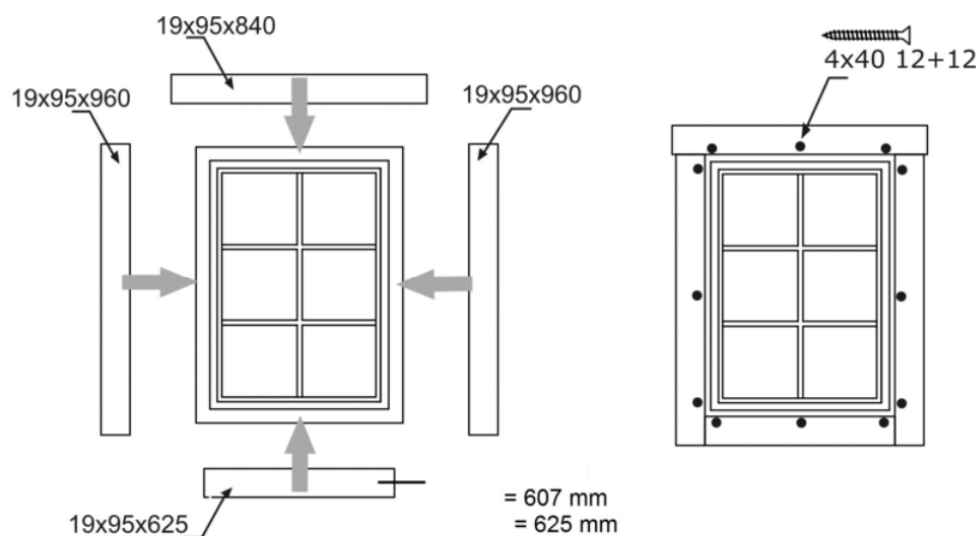
組立ガイド | フィンランド製



ドアを支えながら丁番に取り付け、開閉と戸当たりを確認します。
引っかかる場合は、最初に基礎とドア枠の水平・直角を見直します。
付属する場合は丁番の調整板を使用。無理に扉を削って合わせません。

03 | 窓を取り付ける

組立ガイド | フィンランド製



窓の上下と丁番の向きを確認して開口へ納め、額縁を4×40で枠に固定。

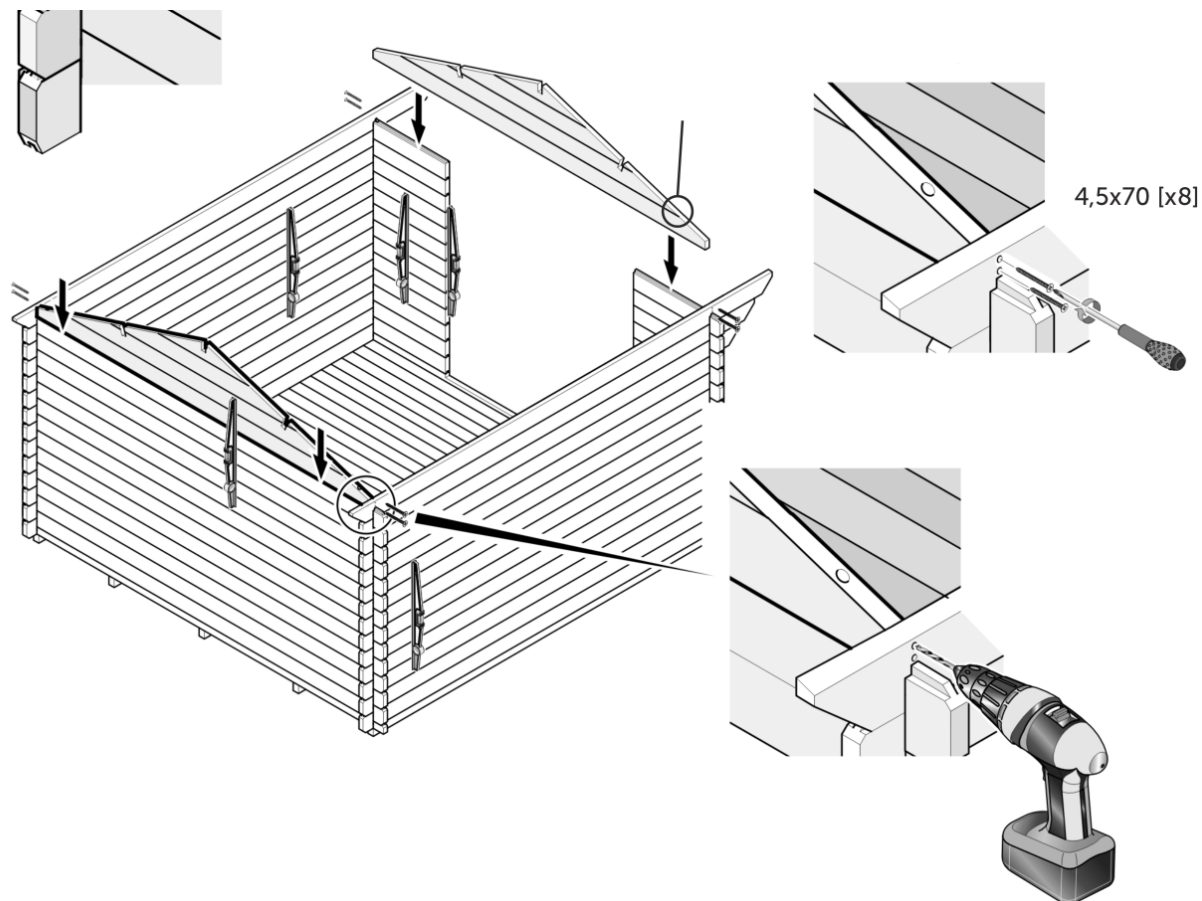
下の額縁：外側はI8（長さ625）、内側はI9（長さ607）です。

額縁を壁ログに固定しないこと。窓上の沈み込み用すき間も残します。

格子は図に合わせて1.7×30の釘で取り付けます。

04 | 妻壁を載せる

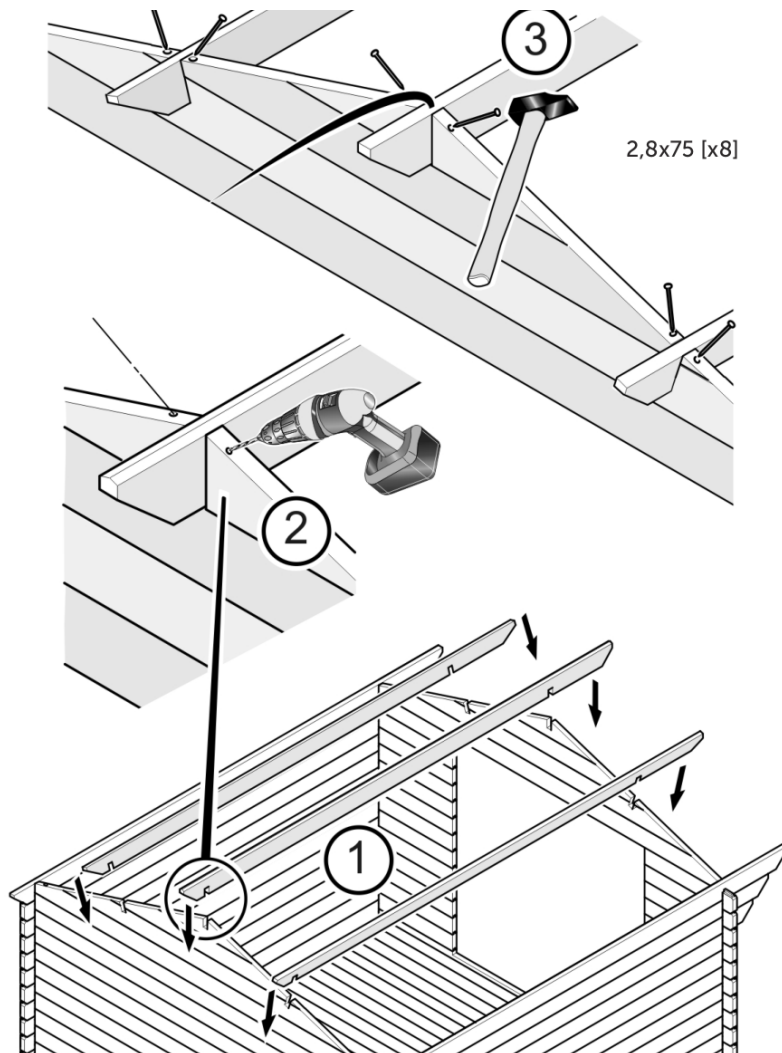
組立ガイド | フィンランド製



側面の最上段は、屋根勾配に沿う加工材です。部材配置図と照合します。
妻壁は2～3人で持ち上げ、倒れないよう仮支えをして取り付けます。
図示の4.5×70・8本で固定。割れを防ぐため下穴を開けます。
この寸法のビスは部材一覧に明記されていないため、付属品を確認します。

04 | 母屋を取り付ける

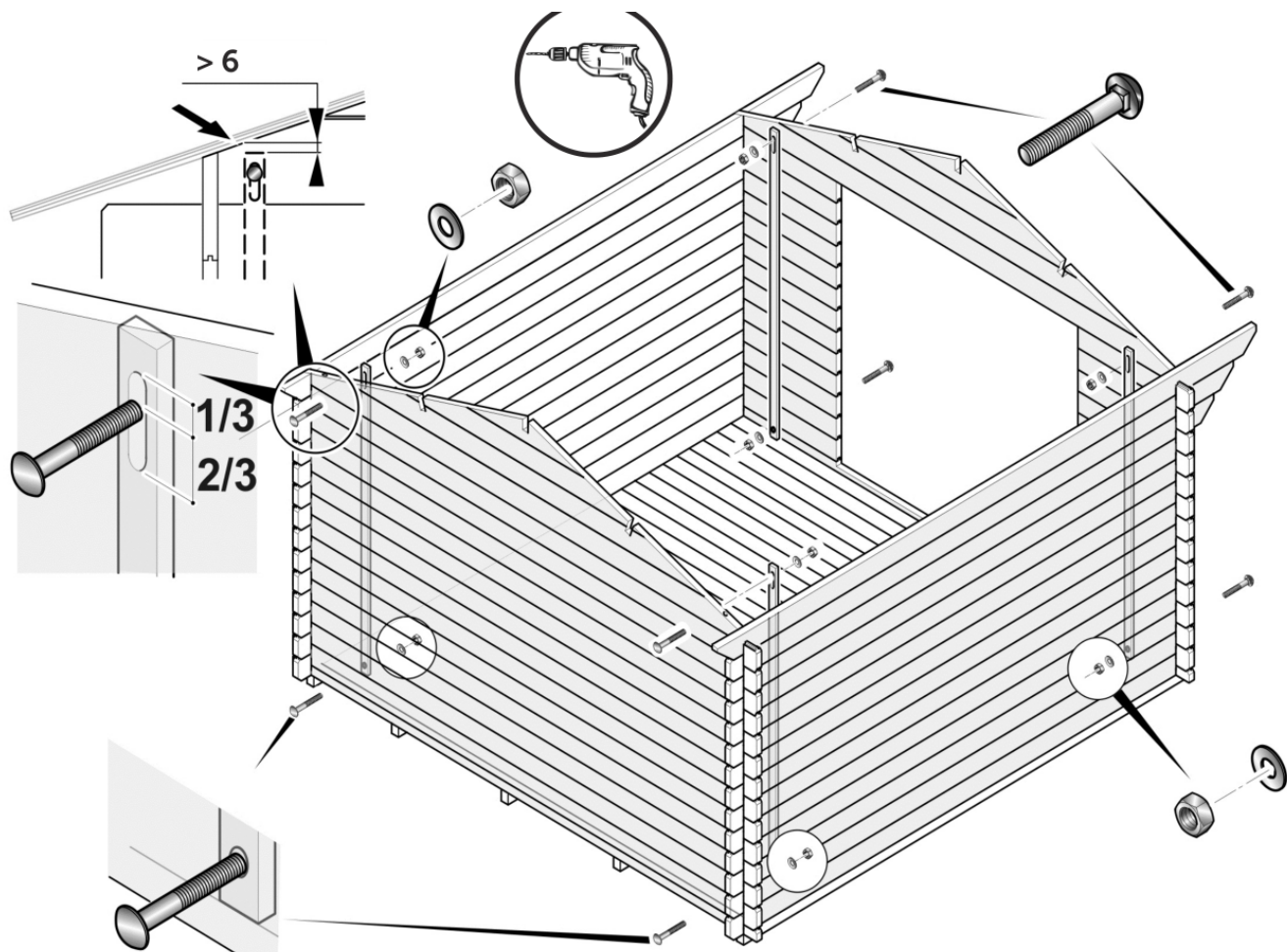
組立ガイド | フィンランド製



3本の母屋V1 (40×145×3185) を、図の位置へ納めます。
屋根の前後の出を確認し、2.8×75の釘・8本で図のとおり固定します。
壁の垂直と妻壁の安定を確かめ、屋根板を張る準備をしましょう。

04 | 耐風用の押さえ材を付ける

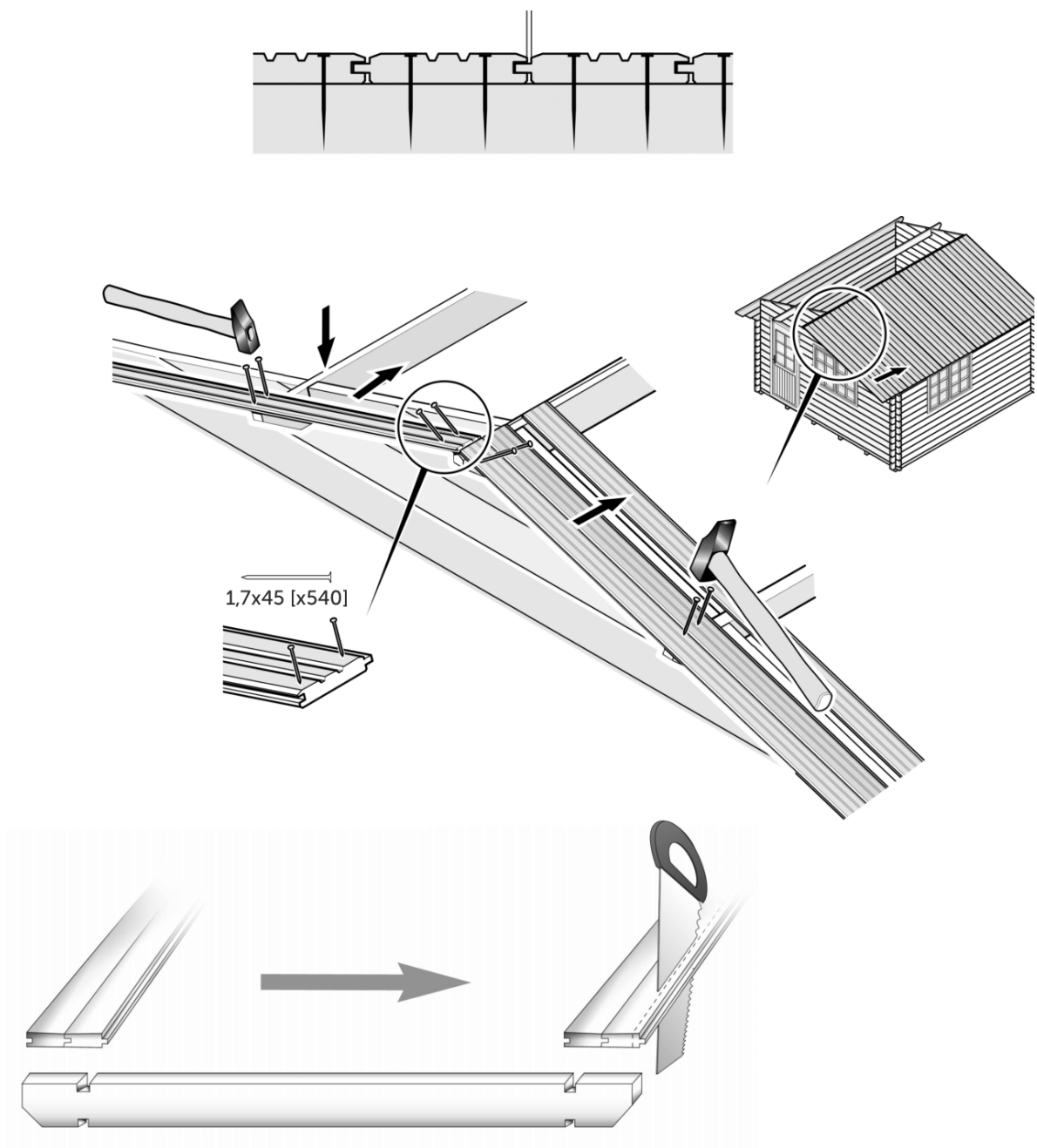
組立ガイド | フィンランド製



耐風材T1を室内の四隅へ取り付けます。上端は妻壁の最下段、
下端は壁の最下段に固定。上端と屋根の間には60以上の余裕を確保。
上側ボルトは締めすぎず、壁が上下に動ける状態にします。
この材だけで基礎への固定はできません。基礎・屋根の固定も必要です。

05 | 屋根板を張る

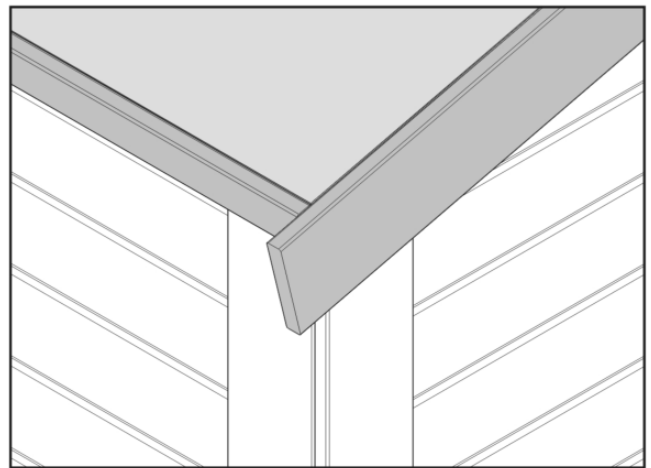
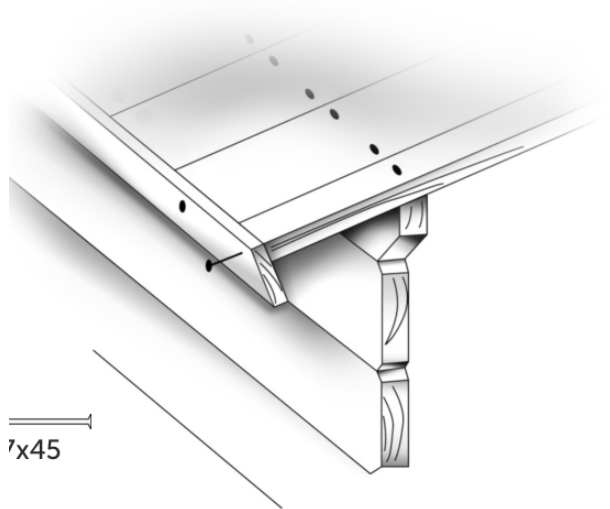
組立ガイド | フィンランド製



屋根板は溝のある面を上（屋外側）、平らな面を下（室内側）へ。
板の間に1～1.5のすき間を取り、1.7×45の釘で母屋と最上段に固定。
片側ずつ張り、棟の中心線と軒先の通りを確認。最後の板は幅を調整。
屋根板の上を直接歩かず、安全な足場から作業してください。

05 | 破風・鼻隠しと屋根仕上げ

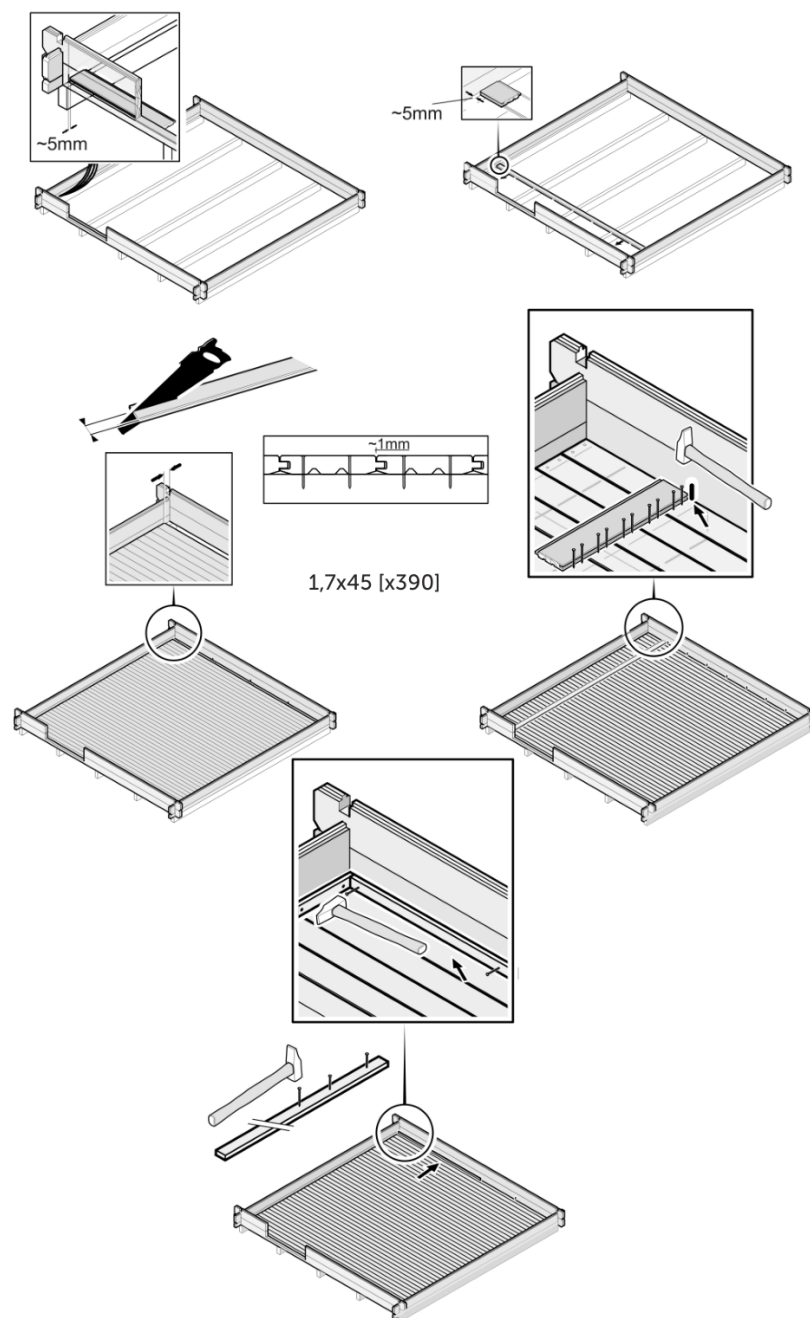
組立ガイド | フィンランド製



図に合わせて破風板・鼻隠しを取り付け、必要に応じて長さを調整。
屋根板を雨にさらさず、すぐに防水・屋根仕上げを施工します。
シングル・ルーフィング・金属板などの軽量材を使い、各施工要領に従います。
付属の下葺き材だけでは完成屋根になりません。重い瓦は使用しません。

05 | 床板を張る

組立ガイド | フィンランド製



壁際から床板L1を張り、1.7×45の釘で基礎材へ固定します。

壁との間は5、板と板の間は1～1.5程度を確保します。

最後の板は幅を切り、壁との5のすき間を残します。

巾木J1を現場で切り合わせて仕上げます。床板と屋根板を取り違えないように。

06 | 塗装と最終確認で完成

組立ガイド | フィンランド製

木が乾いた天候のよい日に、速やかに木部保護塗装を行います。
木部用の防カビ・防青変処理と、ログに適した仕上げを選び、
塗料の使用場所・塗り回数・乾燥条件に従って施工してください。
ドアと窓は両面・木口まで。室内は屋内使用に適した保護剤を使います。

完成チェック

- ☐ 基礎と本体の固定、屋根の固定ができている
- ☐ ドアと窓が無理なく開閉できる
- ☐ 枠上の沈み込み用すき間をふさいでいない
- ☐ 耐風材の上側ボルトが壁の上下動を妨げない
- ☐ 屋根の防水・仕上げと、木部塗装が完了している
- ☐ 床下と室内の換気が確保できている

原資料の屋根荷重表示は最大200 kg/m²です。これは国内の積雪深や
設計荷重への適合を示すものではありません。設置地の条件を確認し、
雪はためず、安全な方法で除雪してください。

お手入れ | 木の動きと上手に付き合う

組立ガイド | フィンランド製

木は湿度によって伸び縮みします。節・ヤニ・細い割れ・軽い反りは天然木の特徴です。構造や組立に支障があるものは当工房へご相談ください。

ときどき確認するところ

- ・屋根材のめくれ、漏水、釘・ビス・基礎固定金物の緩み。
- ・ドアと窓の開閉、丁番、ガラスまわりのシール。
- ・壁の沈み込みと耐風材の動き、床下の通風。
- ・塗膜の劣化、木口や開口部下部の傷み。必要に応じて再塗装します。

換気を続け、湿気をためないことが長持ちのコツです。

不具合・保証のご相談

使用に支障のある不良・不足は、部材記号・数量・写真・梱包の管理番号を添えて当工房へご連絡ください。該当部材は確認まで保管してください。

原資料では、施工指示からの逸脱、部材改造、不適切な保管、塗装・保護処理の未実施、不適切な基礎は保証除外条件とされています。保証の適用・手続きは、お買い上げ時の保証条件に基づき確認します。

お問い合わせ：株式会社 八ヶ岳むらはま工房

TEL 0551-45-6159 / info@murahamakoubou.jp

部材一覧 | 壁・屋根・床

照合用リスト | フィンランド製

記号	部材名	寸法 mm	数量
KI1a	基礎材（仕様a）	36×60×2490	7
KI1b	基礎材（仕様b）	36×54×2490	7
L1	床板	21×87×2415	28
J1	巾木（現場切断）	20×30	10m
KA1a	屋根板（仕様a）	16×87×1600	74
KA1b	屋根板（仕様b）	16×72×1600	90
A1	正面 壁ログ	40×135×2700	1
A2	正面 壁ログ	40×135×570	26
A3	正面 妻壁三角部	40×409×2420	1
A4	正面 破風板	16×120×1650	2
B1	背面 壁ログ	40×135×2700	14
B2	背面 妻壁三角部	40×409×2420	1
B3	背面 破風板	16×120×1650	2
C1	窓側 最下段半割ログ	40×67×2700	1
C2	窓側 壁ログ	40×135×2700	6
C3	窓側 壁ログ	40×135×1017	13
C4	窓側 壁ログ	40×135×1217	1
C5	窓側 最上段ログ・左	40×135×3185	1
C6	窓側 鼻隠し	16×45×3185	1
D1	反対側 最下段半割ログ	40×67×2700	1
D2	反対側 壁ログ	40×135×2700	12
D3	反対側 壁ログ	40×135×2900	1
D4	反対側 最上段ログ・右	40×135×3185	1
D5	反対側 鼻隠し	16×45×3185	1
V1	母屋	40×145×3185	3

基礎材a/b、屋根板a/bは代替仕様です。両方を使用する意味ではありません。

部材一覧 | ドア・窓・付属材

照合用リスト | フィンランド製

記号	部材名	寸法 mm	数量
O1	両開きドア・右	32×735×1714	1
O2	両開きドア・左	32×720×1714	1
O3	ドア縦枠・右	41×55×1765	1
O4	ドア縦枠・左	41×55×1765	1
O5	ドア上枠	41×55×1544	1
O6	金属敷居	12×56×1496	1
O7	ドア額縁・縦	19×95×1770	4
O8	ドア額縁・上	19×95×1710	2
I1	窓（E型）	656×886	1
I2	ドア格子・縦	10×40×750	2
I3	ドア格子・横	10×40×601	2
I4	窓格子・縦	10×40×760	1
I5	窓格子・横	10×40×530	2
I6	窓額縁・縦	19×95×960	4
I7	窓額縁・上	19×95×840	2
I8	窓額縁・下（外側）	19×95×625	1
I9	窓額縁・下（内側）	19×95×607	1
T1	耐風用押さえ材	16×45×1900	4
T2	金物袋	-	1
T3	組立用当て木	40×65×250	2

左右と内外を確認してください。寸法・数量は原資料に基づく目安です。

金物一覧 | T2袋の内容

照合用リスト | フィンランド製

記号	部材名	寸法 mm	数量
-	釘	1.7×45	1100
-	釘	1.7×30	14
-	釘	3.4×100	4
-	釘	2.8×75	8
-	ルーフィング釘	2.5×17	450
-	耐風材用ボルト	8×75	8
-	ナット	8	8
-	ワッシャー	8	8
-	ドアハンドル	-	1
-	シリンダー錠+ビス	-	1
-	鍵穴プレート	-	2
-	丁番	38×100	4
-	落とし金具	-	2
-	合板片	8×44×64	1
-	皿ビス	3.5×25	51
-	皿ビス	4×40	52
-	窓ハンドル	-	1
-	窓開き止め	-	1

図示の4.5×70ビス8本は、この一覧に記載がありません。納品内容を確認。